

短期集中日本語・日本文化学習コース（冬季）実施報告

2015年2月9日（月）～2月26日（木）



＜フィールドトリップの金閣寺にて＞

日本語と日本文化を学ぶ約3週間の短期プログラムは、2011年より実施しています。これまで韓国、協定校が対象でしたが、今回のプログラムから全協定校が対象になり、韓国、中国、マカオ、ドイツの協定校から30名が参加しました。滞在先もこれまでホテルのみでしたが、ホームステイも選択できるようにしました。教室で日本語を学び、日本語パートナーやホストファミリーとの会話の中で使ってみま

みんなユニバーサルスタジアムへ行きました



学生たちは、3週間という短期間だからこそ、その間にたくさん日本語を話したいと積極的に日本語を使っていました。最終日にはスピーチ発表会を実施。授業初日にはひらがな・カタカナしか知らなかった学生も、日本語パートナーに原稿やパワーポイントのスライドをチェックしてもらい、頑張って発表しました。英語による日本文化の講義の後、京都で日本文化を体験に体験。友禅染体験や和菓子作りでは、みんな少しでもよいものを作ろうと一生懸命に取り組みました。また、能楽部の皆さんと書道の先生にもご協力いただき、学内でも日本文化が体験でき、学生たちは大喜びでした。

日本語教育センター通信

第20号

第15回

日本語教育研究会報告

～2015年3月13日実施～



第15回目を迎えた今回の研究会は、2013年度の第13回研究会と同様に、日本語教育センターで日本語教育を担当している教員による実践報告を行いました。今回の発表者は7名で、交換学生、学部留学生を対象としたクラスを中心に、様々な授業における実践活動の発表が行われました。また、日ごろ試行錯誤を重ねている様子をお互いに共有しあい、じっくり意見交換を行うことができました。また、授業活動に関する新たな知見が得られた貴重な場となりました。今年度も、引き続き実践報告の場を設けたいと考えていますので、ご期待ください。

なお、第13回研究会（2014年3月開催）の実践報告については、2015年3月発行の『関西学院大学日本語教育センター紀要』第4号に、発表要旨を掲載しています。ぜひご覧ください。

日本語パートナーの感想

田中 千穂さん（文学部）

私は留学経験もなく外国語も未熟で、最初は留学生と交流するにあたり言語や文化の違いをとても不安に感じていました。しかし、留学生が日本語や日本の文化と真剣に向き合う姿がとても大きな刺激になり、彼らとの活動はすぐに大きな楽しみとなりました。留学生が「また関学に来たい」と言ってくれたことが本当に何より嬉しかったです。

短い期間ではありましたが、かけがえのない友人ができました。国や言語の壁は思うより高くないと、この活動を通して実感できました。



＜留学生と一緒にランチ：田中さん（右上）＞

日本語教育センターより

退任のご挨拶

2015年3月31日退任

異動のご挨拶

2015年4月1日異動

今まで
ありがとう
ございました!



日本語教育センター職員
二宮健志さん

2012年4月から、日本語教育センターで教務関係を担当してきました。これからは、研究推進社会連携機構事務部で、主に学外研究助成業務に携わります。3年間お世話になりました。

私は、2011年4月に日本語教育センターが設立されると同時に同センターに着任しました。当初は契約職員1名、アルバイト職員1名、私の計3名でスタートしましたが、日本語教育センター教員の皆様をはじめ国際連携機構の教職員の皆様にも助けられながら何とか4年間務めることができました。ここより感謝申し上げます。

最後に、留学生や日本語パートナーの皆さん、本当にありがとうございました。



日本語教育センター長
大鹿 重久先生

2012年4月から3年間、日本語教育センターでお世話になりました。その間、専任、常勤、非常勤を問わず、献身的に留学生教育に携わる日本語の先生方の姿を常に拝見し、また創意工夫をしながらそれを懸命に支える事務職員の働きぶりを見てきました。その意味で日本語教育振興協会の2014年度日本留学アワードで西日本地区大学部門賞を受賞し、大学院部門でも入賞したことはセンターの教職員全員の励みになりました。このような皆さんと3年間一緒にできたことに感謝したいと思います。ありがとうございました。

日本語教育センター職員

播野 昌利さん